DEBUT 首長

秋田県上小阿仁村村長　中田　吉穂氏

活性化へ「１人１品」奨励 田舎体験を観光の目玉に

なかた・よしお　1951年秋田県上小阿仁村生まれ。69年米内沢高校卒。81年上小阿仁村に建設会社の中田工業設立。99年から３期連続村議会議員。趣味は読書で歴史物や野村克也氏の著書を愛読。60歳。

秋田県上小阿仁村　秋田県のほぼ中央に位置する。総面積（256 km^2）の93％が山林原野で占められる。人口は2811人（７月末現在）で秋田県内最小。

――「１人１品・１人１坪運動」を公約に掲げた

上小阿仁村は65歳以上の高齢者比率が45％と県内自治体で最も高く、少子高齢化が加速している。雇用の場も少なくイメージは明るいとはいえない。ただ、手をこまぬいていては何も始まらない。一人ひとりが村の特性を生かした作物を作り、それを支援をして自信を持ってもらうのが１人１品・１人１坪運動だ。

地域の中にも木材や農産物、豊かな自然といった資源はたくさんある。例えば野菜づくりや趣味など、自分の得意なものをアピールしてもらい（その産物や成果を）道の駅での販売につなげたり発表したりできるようにしていく。ここに住んでいる価値を住民が実感し、気力が充実することが結果的に地域の活性化につながる。

――産業振興をどう図る

これまで４社が進出してきたが、すでに３社が撤退した。今後も企業誘致ができる可能性は低い。その意味でも今ある資源を活用していかなければならない。まず考えているのが木材の利用。村には2200haの山林があるが、伐採や間伐などの業者も高齢化が進んでいる。山の管理に若い人を結びつけ、後継者を育てていきたい。

木材価格はピーク時の10分の１。しかし、例えば成長著しい中国向けに原木を輸出するというのも１つの手だ。村単独では厳しいかもしれないが、周辺自治体と組んだり県に呼びかけたりして準備を進めたい。また、上小阿仁村はコハゼの実の産地で、ゼリーなどの菓子を試作中だ。商品化を急ぎ、特産品に育てる。そのほかにも山菜のインターネット販売も手掛け、雇用確保につなげたい。

――観光にも力を入れる

現在、総務省が実施している「地域支援協力隊」では２人が村に来ている。観光開発に力を入れるため、もう２人を募集する。村は風景が観光であり、本当の田舎体験ができる。不便なところを不便な形で体験してもらうという逆転の発想で具現化したい。ただ「来て下さい」というだけではダメ。協力隊の知恵も借り、例えばイワナ釣りやそば打ちなどを組み合わせるなど１つのストーリーをつくり、具現化したい。

――職員の意識改革にも取り組む

これまではトップダウンの村政だったため、職員が村長だけを見ていた雰囲気があった。自分で考えて行動してもらうため、７月１日付で約50人の職員の３分の２以上を異動させた。８割は通常業務をこなし、２割は新しいことに挑戦するというのが狙いだ。一方で人口が少ないので、行政は住民に目が届きやすい。住民が助け合い、安心して年をとることができる「長寿村」が理想だ。

（聞き手は
秋田支局長　**小田原　芳樹**）

禁複製・無断転載